

奈良文化財研究所創立60周年記念 講演会を開催

奈良文化財研究所は、専門を異にする研究者が実物に即した文化財の総合調査をおこない、その研究成果を文化財保護行政に役立てるために、文化庁の前身である文化財保護委員会の付属機関として、1952年4月1日、文化財の宝庫である奈良の地に設立されました。

本年で創立60周年の節目を迎えることを記念し、10月6日に、東京・一橋大学一橋講堂で「遺跡をさぐり、しらべ、いかす―奈文研60年の軌跡と展望―」と題して、10月20日に、なら100年会館で「日中韓 古代都城文化の潮流 奈文研60年 都城の発掘と国際共同研究」と題して講演会を開催しました。

東京会場では、平城宮跡等のこれまでの発掘調査の成果、考古学や保存科学への先端の科学技術の導入、遺跡の整備やマネジメント、更には歴史学の基盤をなすものとして着実に取り組んできた奈良の寺社の古文書調査、また、文化遺産の保護に対する国際的協力について講演をおこないました。

奈良会場では、奈文研が中国社会科学院考古研究所、韓国国立文化財研究所との間で継続しておこなっている、日・中・韓の古代都城に関する組織的な国際共同研究の成果を、それぞれの第一線で活躍する研究者が、日本、中国、韓国であきらかにされつつある古代都城文化の豊かな実情を報告し、その後、国際共同研究事業の成果等についてパネルディスカッションをおこないました。

また、講演会にあわせ、「写真で見る奈文研60年史」として、これまでの奈文研の調査・研究の取組、中国、韓国との国際共同研究の成果等を写真パネルで紹介しました。 (連携推進課 田中 康成)



講演会風景(東京会場)